

平成 24 年 10 月 15 日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会
第 4 回理事会議事録

日 時	平成 24 年 10 月 15 日 12:12~13:07
場 所	タワーホール船堀 406 会議室 (東京都江戸川区船堀 4-1-1)
出席者	(本人出席) 松田理事長、浅井副理事長、有田理事、岩崎理事、江口理事、大久保理事、 川本理事、渋谷理事、中川理事、ホートン理事、油谷理事、佐藤理事、藤理事、 中井理事、馬見塚理事、水野理事 (表決書提出) 川島理事、西川理事、秋山理事 (オブザーバ、書記) 坂井 (事務局) 以上 19 名出席扱

議長 松田理事長 (定款第 35 条による)

配布資料 議案書、別紙資料 4 点

別紙 1 「JSBi, CBI, Omix 連合大会 2012 報告」

別紙 2 「2013 年の年会について」

別紙 3 「2014 年の年会について」

別紙 4 「2012 年度技術者認定試験進捗状況」

欠席する理事の書面表決書

議事

議事録署名人の選任

議長より浅井理事とホートン理事を議事録署名人に選任したい旨の提案があり、全員の賛成により承認された。

報告事項

2012 年の年会についての報告

議長より今年度年会担当幹事の有田理事から報告があるとの紹介があり、有田理事が別紙 1 「JSBi, CBI, Omix 連合大会 2012 報告」の内容を報告した。また次の補足説明と質疑応答があった。

開催概況、規模について

事前登録者は参加費無料の学部生を除いて約 400 人、当日登録などを含むと実際の参加者数は 500 人ほどになる見込み。ポスター発表は 164 件で昨年より減っているが概ね例年どおりである。協賛企業数は昨年より減少した。

開催の流れについて

実行委員会は 2010 年より始動。大会名が、各学会から自分の学会と関係ないと思われてしまう名前だったことが反省点である。

問題点について

来年は学会別でバラバラに運営する方針。運営組織としては、方向性を決めるステアリング・コミッティーを置き、その下に実務を担当する実行委員を置く。

質疑

スポンサー窓口は1つであるべき。(江口)

会計の分割はよくない。(浅井)

CBI 学会の負担の問題もあるので要検討。(有田)

議決事項

第1号議案 2013年の年会について

議長より来年度年会担当幹事の中井理事の紹介があり、中井理事より別紙2「2013年の年会について」に沿って現時点でCBI学会、Omix研究会と合意にいたっている内容が報告された。会場は今年と同じタワーホール船堀で、JSBiはずっと小ホールでセッションを開催している予定であること、合同年会といつても、たまたま別の学会が同じ会場でやっている感じのゆるやかな連合にすることも検討している、という補足説明があった。その後議長がこの内容をJSBiとして正式に決議したいと提案し、全員異議なく承認した。

第2号議案 2014年の年会について

議長より別紙3「2014年の年会について」に沿って、現時点でCBI学会、Omix研究会と合意にいたっている内容が報告され、次の質疑があった。

- ・ 「実施委員会」とはどのようなものになるのか。各学会の実行委員会はどうなるか？(有田)
- ・ ローカルアレンジメントを行う。(松田)
- ・ 日程より会場が重要である。セッションがパラレルにできるか、(適当な規模のホールがいくつもある施設は少ないので) JSBiはせまいところに押し込まれてしまうかもしれない。(有田)
- ・ この有田理事のメッセージは木下2014年会長には届いているのか？(江口)
- ・ 2014年はOmixメインで、荻島先生、深井先生が動いている。また(東北メディカルメガバンクには)大林先生、山下(理宇)先生、長崎(正朗)先生などJSBi関係者が多いのでJSBiの希望は通りやすいかもしれない。3学会がパラレルでセッションをもてるよう、という希望は伝える。(松田)

その後議長が別紙3の内容をJSBiとして正式に決議したいと提案し、全員異議なく承認された。

第3号議案 バイオインフォマティクス技術者認定試験について

議長より今年度認定試験担当幹事の藤理事から報告があるとの紹介があり、藤理事が別紙4「2012年度技術者認定試験進捗状況」の資料に基づいて現状を報告した。議長より今年度の認定試験事業内容として承認してよいか発議し全員に承認された。なお承認に先立ち、川島理事より書面表決書とともに意見が寄せられていたため、これに対応する形での補足説明と質疑応答があった。

- ・ 歴史的経緯を説明する。もともとJBIC(一般社団法人バイオ産業化コンソーシアム)が実施していたBICERT(Bioinformatics Certificate;バイサート)があった。JBICが苦しくなつてBICERTから手を引いたとき、認定試験がなくなってしまうのは無責任だということで

JSBi が引き継いだ。

JSBi のメリットとして、学会員の獲得につながっているかといえば、疑問がある。

受験者のメリットもうすいかも知れない。

試験委員の問題作成はとても大変で、事務局業務も委員長の個人秘書を圧迫する大変さである。

学会として継続するか議論してほしい。(藤)

開催意義、受験者メリットともにあると思うが。(松田)

認定試験委員をやると思い入れが生まれるので、(外からみた見方と変わってしまっているのかもしれないが、) 試験対策として勉強するので意味があると思う。学会員へのメリットは疑問だが、受験者の励みにはなっている。(中井)

学会が行っている事業で利益を考えるのはおかしい。バイオインフォマティクスに理解がある人や、本格的にやりたい人を増やす意味はある。また学会がやっているから受ける人もいると思う。(馬見塚)

(利益はともかく) コストの問題は避けられない。(岩崎)

事務作業の負担は大きい。どうしたら負担を減らせるかアイデアがない。(藤)

JBIC 主催時に認定委員をやっていた。当時は事務を民間企業に委託し毎年大赤字になっていた。低成本で続けるため学会で引き受けた。

問題は今の内容で受験者が少ないとことではないか。各地で行われるバイオインフォマティクス講習会には人が集まっているので、地方と連携できなか。(浅井)

以前よりはマニアックな問題を減らして、いろいろなところの人に興味を持ってもらえる方向へいったと思うが、方針を決めたい。(藤)

以前は、上級試験とそうでないものに分ける話があったと思うが、技術者認定試験なのに、いまだに座学寄りで世の中に役立つ力を測れる問題になっていない。(浅井)

今の試験に加えて上級試験も作ることになったらたいへんな負担増になる。いかに負担を減らすか考えているのに、それでは両立しない。(藤)

認定試験を企業が求めていれば続ける意義があるが、そのような例はあるか？(佐藤)

新人には受けさせるという企業もある。しかしそのような企業はごく一部かもしれないし実際に(受験) 対象となる(新人) 人数はわからない。(松田)

学生の受験が多いのかと思っていたが、実は社会人の受験者が多い。(藤)

学生と社会人は毎年半々くらいだった。

やっている側は思い入れが入ってしまう。会員の負担が増えるかもしれないが、試験問題評価委員会など、第三者が(試験問題開発に) 関わっていただけないか。過去問なども客観的に見直して改善点を提案してもらえないか。(思い入れをもってやっている側からは) 改革しよう、という感じにはならない。(中井)

(認定試験委員をやめて) 思い入れがなくなったので少し厳しく見られるようになった。

各地の人材養成拠点などとの連携で、現状の問題をみてもらう、試験問題の作成をふくめて今後も協力してもらう、などのような体制を作れないか。(浅井)

人材養成拠点とは、神奈川アカデミーなどか？(馬見塚)

大学や NGS 現場の会の人など(をイメージしていた)。(浅井)

教える側とのリンクは重要だ。CBI 学会が研究講演会という教育事業中心で成り立っているの

- も参考になる。JSBi も、いまの（主査、部会長にまったくお任せしている）研究会・地域部会の体制ではなく、認定試験を中心事業にする方向性も考えられるかも？（有田）
- 学会の中心事業としてテコ入れしていくのか？いずれは国のお墨付きが得られる試験にしたいから、学会色を出さないほうがいいと以前言われたが、今はどうなのか？（松田）
- 国のお墨付きにならなくても、試験の実用性が高くなれば、学会がやっていてもいいのではないか。しかし試験が学会のメイン事業ではなく、他の（研究会等の）事業とあわせて実施していけばよいのではないか。（藤）
- 企業でのニーズはあるはずだ。修士くらいの人が会社に入って、自分の位置を知るために受験する意味がある。本人の自信にもなる。そういう視点から、（企業の）採用担当者の声や、受験者の声をホームページに掲載するなど（広報を行うのは）どうか？（水野）
- そういう企業の名前を載せてあげて、企業の宣伝にもなるという形はいい。（有田）
- これまでトップ合格者ることは毎年ウェブに載せているが、（企業側の声）検討したい。（藤）

以上

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において次に記名押印する。

平成24年10月15日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

議長 松田秀雄

議事録署名人 渡井潔

同 Paul B Norton

